

# 平成 29 年度 島田樟誠高等学校 学校評価

平成 30 年 3 月 2 日

## 教育目標

自ら求めて学ぶ自主自律の精神を養い、心身を鍛えるとともに、校訓「誠、愛、勇」の下に人格の完成をめざす。

## 教育方針

- 1 学校生活における目標を持たせる。
- 2 学習に積極的に取り組む姿勢を育てるとともに、学力を向上させる。
- 3 思いやりの心を育てるとともに、社会性を身に付けさせる。
- 4 進路意識を高め、進路目標を達成させる。

## 平成 29 年度における学校経営方針と具体的目標

学校経営方針	具体的目標	評価(学校)	成果と課題	評価(委員)
教育課題の解決に積極的に取り組む。	教育課題に関する共通理解を深め、その解決のための方策を実行する。	A	<p>入学生の安定的な確保、学力の向上、希望進路の実現という大きな課題について、学校改革委員会を中心に各担当部署において検討がされ、一部実施に踏み切っている。</p> <p>文科省が進める一連の教育改革の動向を踏まえ、土曜授業を総合コースは原則月 2 回程度（年間の授業日数 213 日）、特別進学コースは原則月 4 回程度（年間の授業日数 231 日）実施した。また、来年度からの男女共学化に伴い発足する 3 コース（特別進学コース、進学探求コース、キャリア探求コース）について教育課程表を完成し、コースごとの検討委員会を立ち上げ、学力向上のための具体的な対応等について検討を開始した。</p> <p>施設面では、トイレ改修工事が 10 月中に完了し、更衣室等の残りの工事も 3 月中旬ころまでに完了予定である。</p> <p>また、共学化に向けての職員研修（女子生徒指導、中学校での生活指導、生徒指導上の法律問題等）を 4 回実施した。定期的に学校改革委員会を開催しコース制や共学に関する具体的な事項についての検討を進めている。</p> <p>進路指導については、進路指導課の体制を大きく見直し進学指導と就職指導を一層徹底する方策を講じている。</p> <p>生徒の転退学についてはきめ細かな指導を重ねており 2 月 23 日現在で前年比 35%減(17 人→11 人)となっている。不登校傾向から進路変更する者が多く、粘り強く指導していきたい。</p> <p>本校の中・長期的な在り方については、校長から職員会議、研修会等で明示されており、各部署でそれに向けて具体的な取り組みを検討していくことが急務である。</p>	A
	総合コース、特別進学コースの設置の趣旨を踏まえ、進路の実現を目指して教育課程を実施し、併せ	B	<p>平成 31 年から試行が始まる「高校生のための学びの基礎診断」と平成 32 年から実施される「大学入学共通テスト」に対応し、進路の実現可能性をより高める 3 コース制の教育課程を編成した。新たな教育課程の展開を円滑にするため、検討委員会を立ち上げ細部の検討を進めている。</p>	

	て平成 30 年度から始める 3 コース制の教育課程の内容を研究する。			
	男子校としての特性を活かす教育活動を推進するとともに、平成 30 年度から始まる男女共学に向けて必要な準備を進める。	A	従来から規律訓練等、男子校の特色を生かした教育活動を行っている。6 月 25 日には、第 6 回高等学校応援団フェスティバル in 静岡に出場し、男子生徒約 50 人による演技で威容を示した。また昨年度に続き、毎月 1 回、FM 島田の番組「ハイスクールラジオ」に生徒 5 人が出演し、男子校の良さを PR した。施設・設備の改修、教育課程の編成のほか、共学化の準備の一環として外部講師による研修会を 4 回実施した。	
目標意識を育てる。	学校生活における具体的な目標を持たせる。	B	始業式、終業式での校長講話やホームルーム、部活動の中で、目標を持つことの大切さを繰り返し話してきた。また総合コース 2・3 年生で週 1 時間実施している「夢実現プロジェクト」で、早期に進路目標を持たせる指導を行っている。その結果、目標を持って学校生活を送る生徒が増えてきた。	B
	部活動等に真剣に取り組むことを通じて心身を鍛え達成感が持てるように指導する。	A	全校で約 4 分の 3 の生徒が部活動に加入している。運動部では、9 つの部が県大会以上に出場した。特に陸上競技部、自転車競技部、バレー部が予選を勝ち抜いて東海大会に出場した。ソフトテニス部は、中部地区でシード決定戦と地区大会で団体戦 2 連覇を果たした。一方、文化部も囲碁将棋部が県大会出場、模型部は今年度も静岡ホビーショーや国際ジオラマグランプリに出品した。更に調理部も 30 人近い部員で熱心に活動している。	
	各種の資格試験や検定試験に積極的に挑戦させる。	B	授業や夏季講座において漢字、英語、数学、日本語ワープロ、情報処理、レタリング、フォークリフト、救命救急、危険物取扱等の検定試験や講習の対策を行い多くの生徒が挑戦し資格を取得した。	
学習指導を充実する。	校内外の研修に積極的に取り組み、教育活動の質の向上と活性化を目指す。	B	県私学協会、県教育委員会主催の研修会をはじめ、近隣の中学校や高校などの研究発表会に主として中堅や若手職員を積極的に派遣した。必要に応じてベネッセやリクルートの研修会も利用した。 校内においては、男女共学化に向けて高校教員、キャリアコンサルタント、弁護士、中学校教員等を講師に研修会を実施した。また、昨年に続き教員の進路指導力向上を図るため小論文指導の講師を招聘し講習会を実施した。校内での公開授業は、保護者と中学校へも案内をした。	B
	チャイムと同時に授業を始め、授業に真剣に取り組む姿勢を育てる	C	更に改善の余地がある。授業中の生徒の様子は、一部に集中力を欠いているものも見られ、更なる授業への取り組みの徹底が望まれる。	
	分かりやすい授業を行い、基礎学力を習得させ、進路に応じた発展的な学習指導を徹底し、個に応じた学力の向上をめざす。	B	6 月に公開授業日を設定し、全職員が公開授業を行い参観者が感想を授業担当者に提出した。年 8 回の全校漢字テストとマナトレ（数学の学び直し）は昨年同様実施した。またベネッセコーポレーションの基礎力診断テストを総合コース 1・2 年生で年 3 回、3 年生で年 1 回実施した。更に結果返却時には、ベネッセ担当者による分析会を実施し、全職員での指導体制を徹底した。これにより学力の伸び具合を客観的に把	

			<p>握し、日々の授業改善の手掛かりとするとともに、新テスト（高校生のための学びの基礎診断、大学入学共通テスト）や就職試験などに対応していきたい。</p> <p>また、次年度の生徒全員に配布する各科目のシラバスの原稿を作成した。</p>	
	読書の習慣を身に付けさせる。	B	毎朝 10 分間の朝読書は定着しており、読書習慣が身に付いている。	
	コミュニケーション能力を育てる。	B	本校にはコミュニケーションを苦手とする生徒が多い。そこで3年生の就職希望者に対して職員による面接練習を重ねた後、島田商工会議所青年部による模擬面接（8月26日）、本校理事、評議員、保護者による模擬面接（9月2日）を実施した。面接練習だけでなく入学時からの日常生活の中でコミュニケーション能力を高めていく効果的な育成方法を模索している。	
生活指導を徹底する。	人を思いやる心を育て、ルールやマナーを守る意識を高める。	C	全体的に意識の向上が見られ、生活指導を受けた件数が減少している（昨年度 12 件→本年度 8 件）。自転車のイエローカードについては、定期的な街頭指導や事後指導を行っているが、相変わらず1年生の違反件数が多い。更にきめ細かい取り組みが必要である。また、来年からの男女共学化に向けて、生徒指導規定の全面的な見直しを行った。	B
	自主的に、明るく、さわやかな挨拶をするように指導する。	B	運動部活動での挨拶指導や、朝の登校指導等が功を奏し、多くの生徒が気持ち良い挨拶をするようになり、近隣の方々からも評価されている。	
	規則正しい生活習慣を確立し、遅刻、欠席をしないよう指導する。	B	毎朝、正西門、生徒昇降口に校長、教頭、学年主任、生徒指導主事、担任等が立ち登校指導を行っている。また、クラス担任が遅刻、欠席が多い生徒を家庭と連絡を取りながら、きめ細かく指導している。更に生徒指導課を中心に8時25分登校を奨励している。年間を通じてみると欠席は横ばい、遅刻は減少傾向にあり、指導の効果が表れているが、1月はインフルエンザの流行があり遅刻・欠席が例年以上に多かった。	
	服装、頭髪の指導を徹底する。	A	計画に基づいて、学期に1回、生徒指導課主催の全校一斉頭髪服装（眉・ピアス）検査を実施し、また月1回、学年における頭髪服装検査も行った。検査に合格できるまで指導を重ねることに因り、服装、頭髪等に関しては良好な状態にある。	
進路指導を充実する。	組織的、計画的な進路指導体制を確立し早期に卒業後の進路目標を立てさせる。	B	「進路のしおり」に基づき1年次からの計画的プログラムを作成した。また、総合コース2・3年生では、「夢実現プロジェクト」の時間を使い、全クラスの組織的な進路指導を目指している。静岡新聞の「Future しずおか」などと連携し働くことについて考える機会を持たせ、面接練習、進学就職説明会、講話等の機会を更に増やすと共に筆記試験で躓くことの無いよう基礎学力の向上にも力を入れたい。全職員の進路指導の力を伸ばすための研修も継続する。また男女共学化に伴い進学、就職ともに校内の指導体制の大幅な見直しを進め内規の見直しもした。	B
	進路意識を高め、目指す進路目標の実現に向けて指導を強化		進路指導は、毎年、進路指導課作成の「進路のしおり」を基に各学年で年間計画を立て、LHR等を利用して実施した。総合コース2・3年生では、進路学習として週1時間「夢実	

	する。	B	現プロジェクト」(自分の特性を知り仕事や進学への理解を深め自分の目指す進路先について志望の理由をまとめ面接の練習などを計画的に行い自分に適していると思われる進路を絞り込んでいく授業)を行っている。特別進学コースでは、大学に合格した卒業生の合格体験談を聞く機会や大学見学等の進路意識を高める機会を作った。進路決定状況は2月23日現在で、4大58人、大学進学準備中5人、専門学校等46人、就職85人、就職準備中4人となった。就職については求人企業の拡大を目指し、大学進学指導については、各大学の特色、入試制度や入試の内容の研究を深めたい。	
	進路指導に関する資料の充実・整備を図る。	B	進路閲覧室に進学用、就職用の資料を整備し、生徒、職員が随時利用している。今後、受験者が作成した大学等の入試や就職試験の報告書を蓄積し、個別の大学や企業の試験内容の分析を深めていくことが求められる。	
安全や健康に関わる教育を推進する。	安全や健康に配慮した環境の整備を図る。	B	例年、保健委員会の生徒が「保健便り」を年間8～9回発行し、健康に対する啓蒙を行っている。また、時期ごとの流行性疾患については養護教諭を中心に、手の消毒液の全クラス配置をはじめ早めの対応をしている。本年度は、1月に入って全校でインフルエンザが流行し3クラスが学級閉鎖したが感染拡大を防止することができた。	B
	健康について関心を高め、日常の健康管理が実践できるよう指導する。	B	インフルエンザ、感染性胃腸炎等の流行が予想される時期には、一定期間継続して朝のSHR時に全校一斉で健康観察を行って報告させ、全校的な取組みを迅速に実施できるようにした。	
	地震等の災害に対する防災意識を高めるため、防災訓練等の方法を工夫する。	B	6月の防災訓練は、平常の授業時に抜き打ちで避難訓練を実施し、実際の災害時に備えた。発災時に生徒がいる場所からの避難経路を選択できるよう、毎年条件を変えて訓練を実施したい。10月には、幼稚園との合同防災訓練を2年ぶりに実施した。弱者を思いやる心を育てる指導の一環としたい。	